

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
専門学校東京テクニカルカレッジ	昭和62年3月27日	高瀬 恵悟	〒164-8787 東京都中野区東中野4-2-3 (電話) 03-3360-8881		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 小山学園	昭和49年10月23日	山本 匡	〒164-0001 東京都中野区中野6-21-16 (電話) 03-3360-8831		
目 的	建設業界の求める設計、施工管理能力を有し、ベースとしてのデジタル技術を修得した即戦力となる、中核的専門技術者であって、かつ建築士ならびに建築施工管理技士として業界で活躍できる人材の育成を目的とする。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業専門課程	建築科 (夜間)	2年 (夜)	1,724 単位時間 (又は単位)	平成10年12月21日 文部省告示第179号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	896 単位時間 (又は単位)	0 単位時間 (又は単位)	0 単位時間 (又は単位)	828 単位時間 (又は単位)	0 単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人	54 人	4 人	5 人	9 人	
学期制度	■1学期：4月11日～5月25日 ■2学期：5月26日～7月15日 ■3学期：8月25日～10月20日 ■4学期：10月31日～12月26日 ■5学期：1月12日～3月8日		成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 原則として、各期末に実施される履修判定試験の点数によって評価している。科目によっては課題点等も考慮することがある。	
長期休み	■学年始め：4月7日 ■夏 季：7月16日～8月24日 ■冬 季：12月27日～1月11日 ■学 年 末：3月31日		卒業・進級条件	卒業にあつては履修時間表で定められた全ての履修科目の履修をもって、進級にあつては当該年度の全ての履修科目の履修をもって条件としている。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 保護者への連絡、家庭訪問等		課外活動	課外活動の種類 ■サークル活動 (有・無)	
主な就職先	■主な就職先、業界 ・清水建設株式会社 ・前田建設工業株式会社 ・技建工務株式会社 ・株式会社プランテック総合計画事務所 ・株式会社アース建築設計工房 ■就職率 100%		主な資格・検定	一級建築士 二級建築士 1級建築施工管理技士 2級建築施工管理技士 宅地建物取引主任者	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 7名 ■中退率 9.2%</p> <p>平成25年4月 1日在学者 76名 (平成25年4月入学者を含む)</p> <p>平成26年3月31日在学者 69名 (平成26年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>経済的困窮、就業状況の変化、心身の不調など</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>中退防止を含む学生指導の窓口は、全てクラス担任が担っている。その上で、経済的困窮に関しては学務室が奨学金等の斡旋を行うなどの対応を行い、心身の不調や家庭の事情に関しては、その内容に応じて科長や事務長、教務部長が個別相談を実施している。いずれの対応も、「学生指導記録データベース」によって情報を共有し、迅速で適切な対応を心掛けている。</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL:http://www.tera-house.ac.jp</p>

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本科における教育課程の編成においては、建築技術者に求められる基礎的素養を身につけさせることはもちろん、業界動向ならびに必要な新技術情報等を等も踏まえて、必要とされる知識・スキルを修得させることを目標としている。

このことを実現させるために、また、形骸化しがちな資格偏重教育に陥らないための教授法、教材開発のために、本科では、業界諸団体等の意見を積極的に活かし、職業実践的かつ専門的能力育成に必要な内容を科目に落とし込むために、外部の関係者との間に密接な情報交換の場である「教育課程編成委員会」を設け、カリキュラム編成の参考にする体制を組織的に構築している。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年10月1日現在

名 前	所 属
大塚 雄二	一般社団法人 建築家協会、大塚雄二都市建築設計事務所
霜野 隆	一般社団法人 インテリアプランナー協会、株式会社レスト
中村 勉	一般社団法人 東京建築士会、株式会社 中村勉総合計画事務所
樋口 修	東京商工会議所 中野支部、株式会社 ヒグチ設計
北川 辰雄	清水建設株式会社
中山 聡	前田建設工業株式会社
宮脇 伸歩	株式会社LIXIL
三上 孝明	学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ
高瀬 恵悟	学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ
今野 祐二	学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ
甲田 竜雄	学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ
白井 雅哲	学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ
鈴木 昇	学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ

(開催日時)

平成25年度	第1回	平成25年 11月19日	13:30~15:30
	第2回	平成26年 1月23日	15:30~17:30
平成26年度	第1回	平成26年 7月18日	15:30~17:30
	第2回	平成26年 11月28日	15:30~17:30
平成27年度	第1回	平成27年 7月17日	15:30~17:30
	第2回	平成27年 11月28日	15:30~17:30
	第3回	平成28年 3月18日	13:30~16:40
平成28年度	第1回	平成28年 7月25日	15:30~17:30
	第2回	平成28年 11月29日	15:30~17:30 (予定)
	第3回	平成29年 3月14日	13:30~16:40 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校では、教育活動の形骸化を防止するためには、まずは上記の教育課程編成委員会等において現在のカリキュラムや授業内容等をチェックして頂く事が必要であると考えているが、併せてその実施にあたっては企業からの協力が欠かせないと考えている。

具体的には、カリキュラムの中に企業連携科目を組み込み、その科目の前後の科目とも有機的に連携させ、入学から卒業に至る一連のプロセスの成果として表れるようにすべきと考えている。

科目名	科目概要	連携企業等
建築製図実習7	1期に学んだRCラーメン構造の設計知識を活用し、公共複合施設を設計課題として中規模耐火建築物の実践的な設計手法を学んで行く。作業は実務同様複数人による共同作業として行う。今年度の課題(3,000㎡規模の郊外型現代美術館又は都心型複合共同住宅の設計)では、計画敷地を緑が多く残る多摩地区又は中野駅周辺に設定し、法規制と近隣住民、周辺環境、交通計画にも配慮をして設計を進めていく。当期(2期)は敷地や設計条件を読み込み理解した上で、エスキスから基本設計へと作業を進める。授業終了時にはグループ毎に制作経過の発表会と講評会を行い、来期作業への準備を行う。	①一級建築士事務所 スティール・リーブル ②一級建築士事務所 チューズデイ ③関野アーキテクトオフィス 一級建築士事務所
建築製図実習8	1期に学んだRCラーメン構造の設計知識を活用し、公共複合施設を設計課題として中規模耐火建築物の実践的な設計手法を学んで行く。作業は実務同様複数人による共同作業として行う。今年度の課題(3,000㎡規模の郊外型現代美術館又は都心型複合共同住宅の設計)では、計画敷地を緑が多く残る多摩地区又は中野駅周辺に設定し、法規制と近隣住民、周辺環境、交通計画にも配慮をして設計を進めていく。当期(3期)は前期でまとめた基本設計の内容を、意匠、構造、設備計画を進めながら配置図、各階平面図、断面図、立面図とCAD図面化し次期(4期)に作品としてまとめ上げる準備をしていく。今期末には履修判定試験と共に設計内容と作業の進捗状況の確認のための中間発表会を行う。	①一級建築士事務所 スティール・リーブル ②一級建築士事務所 チューズデイ ③関野アーキテクトオフィス 一級建築士事務所
建築製図実習9	1期に学んだRCラーメン構造の設計知識を活用し、公共複合施設を設計課題として中規模耐火建築物の実践的な設計手法を学んで行く。作業は実務同様複数人による共同作業として行う。今年度の課題(3,000㎡規模の郊外型現代美術館又は都心型複合共同住宅の設計)では、計画敷地を緑が多く残る多摩地区又は中野駅周辺に設定し、法規制と近隣住民、周辺環境、交通計画にも配慮をして設計を進めていく。当期(4期)は前期までに制作したCAD図面データを元に内外観パースと模型製作及び写真撮影を行い、A1サイズのプレゼンテーションボードにレイアウトし、建築作品として完成させる。期末には履修判定試験と共に各グループ担当教員による作品講評会を行う。	①一級建築士事務所 スティール・リーブル ②一級建築士事務所 チューズデイ ③関野アーキテクトオフィス 一級建築士事務所

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校では、専門学校教員には実務、学術、教授力の3つの要素が欠かせないと考えており、そのそれぞれの専門性を向上させるためには、現状の能力等を適切に評価し、改善点を明確にした上で、適宜研修等による育成策を実施しなければならないと考えている。

以上の様な考え方にに基づき、本校では各教職員の適性や要スキルアップ項目等を見極めた上で、「小小学園研修規定」ならびに「東京テクニカルカレッジ教職員研修方針」、「同 教員研究方針」に基づき、研修・研究計画の立案や実施を行っている。具体的な内容としては、主に企業や団体に依頼する形で実施される「専門性向上研修」や「教授法研修」、学内での集合研修が中心となる「教育界認識研修」などがあげられる。これらの研修は、年度計画に基づいた校長指示により実施されるが、教職員自らが自己研鑽に務めることを目的として自ら研修・研究の実施を希望する場合においても、校長判断によりこれを認めることがある。

本科においても、以上の様な校の基本方針に基づき、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っている。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属	
安藤 拓也	卒業生	株式会社 三輪設計
渡邊 和彦	卒業生	データテクノロジー株式会社
澤坂 智之	卒業生	株式会社 スケアクロウ
立田 由里子	卒業生	独立行政法人 理化学研究所
近 光一	卒業生	
濱 宏之	保護者	—
西村 明宏	保護者	—
奥山 理香	保護者	—
樋口 修	地域	東京商工会議所 中野支部、株式会社 ヒグチ設計
中山 典隆	地域	東京商工会議所 中野支部、株式会社 イプシロン
岸 哲也	地域	東中野五丁目小滝町会
大塚 雄二	協会企業等	一般社団法人 建築家協会、大塚雄二都市建築設計事務所
霜野 隆	協会企業等	一般社団法人 インテリアプランナー協会、株式会社レスト
杉山 司	協会企業等	特定非営利活動法人 中野コンテンツネットワーク協会、桔梗 ICT パートナーズ株式会社
川戸 茂	協会企業等	株式会社 システム・ユー
佐々 義子	協会企業等	特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21
小野寺 洋子	協会企業等	株式会社 光英科学研究所

(学校関係者評価結果の公表方法)

[URL:http://www.tera-house.ac.jp/tec/disclosure/index.html](http://www.tera-house.ac.jp/tec/disclosure/index.html)

5. 情報提供

(情報提供の方法)

[URL:http://www.tera-house.ac.jp](http://www.tera-house.ac.jp)

授業科目等の概要

(工業専門課程建築科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			専門導入1	この講座では、パソコンの基本的な取り扱いができるようになること。キーボードから文字入力ができるようになること。ノーツデータベースの参照・メールのやりとりができるようになること。ネットワーク利用基準を理解し、ネチケットに従った使用ができるようになること。コンピュータの内容や個人情報を守らなければならないことを理解し、安全な使い方ができるようになることなどを主眼に講座を進める。また、こうした基本事項を学びながら、LAN における、ネットワークの構造の概要も学習する。	1・①	32		○		
○			専門導入2	この講座では、MS-WORD を利用して、日本語の入力方法や、文章の編集、罫線や表を利用したレイアウト、MS-EXCEL によるデータの管理方法を学習し、リスト作成や、データ集計、グラフの作成、Photoshop や Illustrator を利用して、着色や画像編集ができるように学習する。また、データの画層分けから、今後続く CAD 画層の概念を学ぶ。	1・①	32		○		
○			建築概論	これから学ぶ「建築」についての概説と、卒業後に資格を取得できる「建築士」とはどのような職域において、どのような職能を持つものかについて知る授業である。建築士になるには国家試験に合格しなければならないが、どうして必要なのかなど、建築を学び始めるにあたって、はじめに建築士の業務内容やその職能を知り、いかにして今後の目標につなげるかをテーマに建築の概論を加えて講義を進める。	1・①	32		○		
○			建築製図実習1	建築業務を行う上で現在最も広く用いられている製図手法はPC上でのCADを利用したの作図である。この実習授業ではAutoCAD を用いて建築図面を書けることを目指すが、ただ単にAutoCAD で図面を描くのではなく、AutoCAD を使いこなすレベルを目標とし、基本操作から順に習得してAutoCAD を道具として使用できるように学習する。	1・①	32				○
○			建築立体造形実習1	CAD で表現される3次元を理解するために、簡単な図形、物体を紙上にフリーハンドまたは定規を使用して表現するなどの物体を表現する手法を学ぶ。ここで、デジタル化されるものと、されないものの対比を意識して、表現技法として手で行うことを習得する利点は、表現の幅を広げる点にある。様々な図形を、上面、正面、側面の3方向に分解して表現する手法や、立体を展開して表現する手法も学ぶ。また、紙面に作図した立体を模型として立体物として作成を行い、紙面に描かれた立体が実際に立体物となったときにどのように見えるのかという実習を通して、立体への理解を深めていく。	1・①	32				○
○			建築計画1	建築の計画を進めていく中で、生活空間の広さや規模を考えると基本となるものは、空間の中心にいる人間である。そして、人体寸法や動作・人間の行動の特性を知って、人間と機械系の	1・②	16		○		

				間で、安全でより使いやすい関係を追求する科学分野を「人間工学」と呼んでいる。この講義においては、建築をかたちづくる寸法をひとつひとつ分析し、建築における寸法がどのように決定されていくか考えていくとともに、「人間工学」の基本的な考えを理解し「人間工学」の建築への応用を学ぶ。						
○			建築史 1	築全般に関連する歴史を学び、デザインの様式に関わる基本知識を歴史の面から学習する。ギリシャ、ローマ、ビザンチン、イスラム、ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロック、ロココ、ネオクラシシズム、モダニズム様式などの多岐にわたる建築・インテリア・デザイン史の基本を身に付け、設計実習に応用する。	1 ・ ②	16		○		
○			建築法規 1	なぜ建築に法規制が必要なのかといったことから、建築物といった物体を地上に出現させる場合に係わる、形態制限としての建築基準法を理解する。建築物を計画していく際には大きく分けて2つの章が重要になる。一つは単体規定と呼ばれる第2章の条文、もう一つは集団規定と呼ばれる第3章の条文。今期は主に法規に関わる用語の学習から集団規定の道路、用途地域といった部分まで学習する。集団規定とは都市を形成するにあたって街に対して建物が考えなければならない規制のことをいう。	1 ・ ②	16		○		
○			構造力学 1	建築とは「強・用・美」の3要素を兼ね備え、建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれている。建築に関わる全ての人はこのことを心に留めなければならない。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとしても重要な分野といえる。 構造力学1では、基本的な構造力学の考え方や、構造物や力の表現方法を学び、建築構造力学の共通言語習得する、後半からは力学の計算として「モーメント」、「力の分解・合成」、「力の釣り合い」を中心に学ぶ。	1 ・ ②	16		○		
○			建築一般構造 1	建築一般構造では、建築物の建て方・構法をはじめ、各建築物の部材の種類（木造・RC造・S造）による特徴を学習する。 建築一般構造1では、木造についての構法や木材の性質、住宅の各部工事に係る部材から見た各部構造を学習していく。部材名称が多く出てくるが、イラストや写真を見ながらイメージを膨らませ、できるだけ早い段階で理解できるようにする。設計や施工に深く関連しているため、他の教科と関連付けて効率的に覚える事も必要である。	1 ・ ②	16		○		

○			建築施工 1	「建築施工」とは、建築主が求める品質と設計者が意図した性能を満足させ、限られたコストと時間の中で、労働災害を発生させずに建物の完成を実現させる事ある。この様な複雑で難解な命題に対し、我々は「モノを造る」という直接的行為だけではなく、「モノを造る為の管理」を重視する必要がある、当然この講座でもこれを意識して進めていく。 具体的には、現場実務において「建設現場の四大任務」と呼ばれている「品質管理」、「原価管理」、「工程計画・管理」、「安全衛生管理」の4つの項目についてそれぞれ講義を行い、建築施工ならびに施工管理の全体像の把握を試みる。 なお、本講座に引き続いて実施される「建築施工2」と「建築施工3」では、それぞれ教科書p.35～140、同41～190を用いて、「躯体工事の施工プロセス」と「仕上・設備工事の施工プロセス」のそれぞれを学習していく。	1 ・ ②	16		○		
---	--	--	--------	---	-------------	----	--	---	--	--

○		建築製図実習 2	建築製図に必要な基本事項を学び、80 m ² の小空間平面図がグリッド用紙上にフリーハンドで作図できることを目標に学習する。ここでは、物体を要求された縮尺で、正確にうつしたり、その形態を伝えるスケッチをしたり、簡略化して示したりして、第三者に物体の大きさや形状を正確に伝えることができるようになることを目標とする。また、人間が生活し行動し動作するために必要な空間の大きさと、諸室の機能を理解し、諸室に、適切なスペースを割り付け、機能的な配置ができるように学習する。	1・②	32				○
○		建築立体造形実習 2	Shade の使用方法を学び、様々な立体物を自由自在に作成できるように操作の習得に努める。パソコン上に作成された立体物に陰影や付影を行い、立体感を持たせると共に、色や、質感、反射具合などの諸属性を与え、よりリアルな画像を生成できるよう習得していく。また、ウインドウのパラメータによる設定や座標軸などの 3DCAD 操作に必要な知識も学んでいく。	1・②	32				○
○		測量実習 1	測量の必要性、その理論の根拠などを概観する講義から学ぶ。実際に測量を行なうために必要な測量方法の知識と、道具の知識を学んで、実際のフィールドで測量する。測量は非常に地味で細かい作業を伴うため、強敵は誤差です。実用上問題のないような誤差も数が重なると、時には大きな誤差につながる可能性がある。この講座では、アリダード、平板という測量機器が正しく使用でき、平板測量が行なえることや、水準測量器を用い、レベル測量ができるよう学習していく。ここでは、数学的な知識、特に相似や三平方の定理、ヘロンの公式なども学習する。	1・②	30				○

○		環境工学 1	自然を破壊しないで人間にとって快適な空間を造るには、太陽光の性質・空気の性質・温度と湿度・熱の性質・色彩の原理を知り、上手く取り入れていく方法を知ることが必要である。これらを学び、より快適な空間の計画ができるようになるための講座である。 今期は、日照・日射、色と音に関して学習する。日照や日射の項目では、日照や日射による室内の明るさや人工的な照明による明るさの変化、適度な光量について学習する。色や音の項目では、色が人に与える影響や効果、音の伝わり方や残響について学習する。この講座では光や色、音についての理解を深めていく。	1・③	16				○
○		建築設備 1	建築設備には「給排水衛生設備」「空気調和設備」「電気設備」があるが、本講義（建築設備 1）では「給排水衛生設備」について学習する。給排水衛生設備は、人が居住したり活動する場所や建物内外の水回りの環境を衛生的で快適なものに創り上げ、居住者にとって機能的で安全で利便性がよいことが不可欠である。また、火災や地震などの非常に対する備えを有していることや、省資源・省エネルギーへの配慮、高齢化社会への対応なども求められている。	1・③	16				○
○		建築史 2	古代、中世、近世、そして近代の日本の住宅を中心とした歴史を学ぶ。特に各時代の生活、文化を背景とした住宅の成り立ちについて学ぶ。これらの歴史（＝生活＋文化）の学習から、生活の根源的問題と意味（食べる、安らぐ、眠る、招く、装うなど）について学ぶ。またこれらの各時代に関連する寺社建築や城郭建築についても解説する。	1・③	16				○
○		建築法規 2	建築法規 1 に引き続き集団規定を学習していく。この科目では、物体を地上に出現させる場合に係る、法規制を建築基準法から学び、ポリュー	1・③	16				○

				ム・形態の規制が分かり、設計に活かすことができることを目指す。ボリューム・形態の規制とは、建物の敷地に対する割合の制限であるとか、高さの規定までを学習し、設計に活かせるようにする。					
○			構造力学2	<p>構造力学1で学習した、力・モーメント・力の合成と分解をベースに今期は構造物においての力の流れを学習する。</p> <p>前半では構造力学1の復習と共に静定構造物においての力の流れや反力の求め方を学習し、後半では構造物内部に発生している断面力（応力）について学習する。反力を求めることによって、支点到求められる強さが判断できるようになり、断面力（応力）を求めることによって、部材に求められる強度が判断できるようになる。</p>	1・③	16		○	

○			建築施工2	<p>2期に開講した「建築施工1」では、建設業界の概要や建設現場の四大任務（Q：品質管理、C：原価管理、D：工程計画・管理、S：安全管理）などについて学習した。それに引き続いて今期と来期に開講される「建築施工2」と「建築施工3」では、実際の建築工事の流れを教科書『初学者の建築講座「建築施工」』に基づいて概観していく。具体的には、今期「建築施工2」では建物の骨組みを構成する躯体工事を、来期「建築施工3」では内装や外装の仕上工事を学んでいく。</p>	1・③	16		○	
○			建築製図実習3	<p>延べ床面積が100㎡前後の戸建木造住宅の設計演習を通し、発想から作図までの設計過程を学び・理解する。実務としての建築設計では、「建築基準法」や「構造上の制約」、「施工上の制約」などをクリアすることが、重要である。今期は、こうした規制を学びながら、現実的な木造住宅の設計を学ぶ。</p> <p><今期の目標></p> <p>1：100㎡の延べ床面積の木造軸組工法の住宅を設計できること</p> <p>2：敷地形状と近隣環境の関係から建物配置とゾーニングができること</p> <p>3：斜線制限等の高さに関する規定、面積に関する規定、有効採光面積を理解し、計画に反映できること</p>	1・③	32		○	
○			建築立体造形実習3	<p>3期の建築リ立体造形実習では、3期までに学習した木造の構造体を題材にCG作成を行い、木造住宅の構造について理解を深めていく。また、その構造体を仕上げたパターンCGも作成を行い、建て上がった建物とその構造を比較させてプレゼンテーションが作成できることを目指す。CGを見せながら、構造体の各部位の役割を理解した説明が行えるようになることで木造住宅の集大成とし、今期の目標はCGの使い方のバリエーションを学びながら、作品を一つのプレゼンテーションボードに纏め完成させていくことを目指す。</p>	1・③	32		○	
○			一般教養1	<p>この講座では、ファイナンシャルプランニング（生活設計）の発想を養い、それを行うための基礎知識を学ぶ。豊かで安心できる生活を送るためには、どのような生活設計をたてたらよいか、夢や希望を実現するためにどれくらいの費用がかかり、どのような資金計画を立てたらいいかを考えるのがファイナンシャルプランニングである。日本社会の状況が、その必要性を高めてきた。今まで、人任せでもよかったことが、これからは、自分で選択する必要性が出てきた。日常生活で密接に関わってくる税金、法律、社会保障、保険、金融商品。この講座では、給与から天引きされる社会保険と所得税、住民税についての基本を学び、給与明細の項目と算出された数字がわかるようになることを目標とする。</p>	1・④	16		○	

○		環境工学 2	この期では、室内気候と熱に関して学習する。室内の空気環境を清潔に保つための換気や結露のメカニズムなどや外気から室内に向けて熱がどのように伝わるのかなどについて学ぶ。室内気候と熱は室内の環境に大きく関わる内容であり、室内環境についての理解を深める。	1 ・ ④	16		○			
○		建築設備 2	建築設備には「給排水衛生設備」「空気調和設備」「電気設備」があるが、本講義（建築設備 2）では「空気調和設備」について学習する。空気調和設備は、室内空気の温度・湿度・気流・清浄度といった要素をコントロールするもので、そのシステム構成や特徴などについて触れるとともに、地球環境への配慮として省資源・省エネルギー化などのエネルギーの有効利用等についても触れていく。	1 ・ ④	16		○			
○		建築法規 3	建築法規 3 では、建築基準法第 2 章、通称単体規定の半分を学習する。この規定は地域に関わらず、全国どこに建築を建ててもかかる法律となります。全 6 回の授業で、一般構造といわれる居室内の採光・換気の必要量の規定、建物の火災を防ぐ防火・耐火に関する規定、その他の一般構造に関する規定を建築関係法令集をもとに学習する。二級建築士受験を想定した法令集の引き方も合わせて学習し、単体規定の半分を身につける。	1 ・ ④	16		○			
○		構造力学 3	構造力学 2 で学習した、静定構造物の反力・応力をベースに今期はより多くの静定構造物の反力・応力を求め、さまざまな応力図を作図し、構造物内部に発生している力の流れを学習する。 前半では構造力学 2 の復習と共にさまざまな静定構造物において発生している断面力（応力）を求め、応力図を作図しながら構造物をより深く理解していく。後半ではトラス構造を学習し、構造物材内部での力の流れをより深く理解するとともに、トラス構造での力の分散を学ぶ。	1 ・ ④	16		○			
○		建築材料 1	本講座では、建築物に使用される代表的な構造材料である、セメント・コンクリート・木材・金属などに主案を置き、JIS や JASS で決められている試験方法を中心として、さまざまな測定・試験を行い、材料の特性を把握するとともに、建築分野における設計・製作・検査の作業の流れを体験的に学習することにより、建築技術者としての資質を養うことを目標とする。	1 ・ ④	16		○			
○		建築製図実習 4	4 期は、3 期までに学んだ設計手法を応用して、より豊かな住空間を設計することを目指す。加えて、二級建築士の実技試験で多く出題される延べ床面積 200 m ² の併用住宅の設計に慣れていく。ここでは、3 期の住宅の倍の面積を把握し、設計図書にまとめられること、住宅と異なる用途の設計ができることを目標とする。 <今期の目標> 1：210 m ² の延べ床面積の木造軸組工法の併用住宅を設計できること 2：住宅以外の用途の設計が出来、住宅との関係を考慮しながら建築にまとめあげられること 3：バリアフリーを考慮した建築設計ができる	1 ・ ④	32				○	
○		建築立体造形実習 4	2 期の授業で設計した小規模住宅を 3DCAD で作成することによってコンピュータを利用した建築パースの技術導入を行う。2 期に勉強した 3D 技術の理解を深めるために自身で設計した設計物の 3D 作成から設計した空間の空間コーディネートを行いより建築的な 3D 制作の過程を学ぶ。今期はラジオシティという技術を利用しての建築パースの制作を行っていく各個人で部屋が違う為に 3D 作成の理解と応用力が要求される。正確なモデリングを作成できることにより、今後行われる設計	1 ・ ④	32					○

				課題の作品を 3D パース化できるようになることを目的に、立体造形を学ぶ。また、作成した CG は設計製図演習の時間に CAD 図面と共に一枚のプレゼンテーションボードとなるようにまとめる。					
○			一般教養 2	今期は、マイホームを取得するにあたり、資金問題にどのようなものがあり、どのような手続きが必要かを学ぶ。現在は、低金利で、デフレによりマイホーム取得には絶好の機会と言われているが、家賃とローンの支払が同額なら大丈夫と、思いついたら購入できるものでもないのである。住宅を設計して提供する側が受注が実現できるためにも顧客のお金の算段を理解しておく必要がある。	1 ・ ⑤	16		○	

○			建築法規 4	建築法規 4 では、単体規定の残りとして、構造に関わる規定を学習する。学科Ⅲの構造分野に通じるところとなり、構造力学や一般構造のもとなる規定や数値を定めているものがこの分野となる。法規では、構造力学のような計算は行わないが、荷重や外力における考え方や木造や RC などの構造体を用いた建設において最低限必要となる構造の在り方などを法令の中から読み取って判別できるようにすることを旨とする。また、後半部分では建築法規 1～4 において通年習得の割合が低い高さや容積率の計算等の復習学習を行い、2 年生になる前に基本的な法規の内容をおさえておく。	1 ・ ⑤	16		○	
○			構造力学 4	構造力学 4 では、これまでに学んだ力、モーメント、荷重、反力、応力の知識を基に、構造物の部材や部材内部に焦点をあて、断面の性質、梁のたわみ、長柱の座屈について学習する。この概念を理解し計算ができるようになると、部材の変形のし難さ、強さや剛さの判断ができるようになり、柱や梁の形状や大きさを判定でき、構造設計に利用することが可能となる。	1 ・ ⑤	16		○	
○			建築一般構造 2	建築一般構造 2 では、鉄筋コンクリート構造の構造特性について学ぶ。鉄筋コンクリート構造は現代都市において特に重要な大規模建築物、耐火建築物を構成する構造形式といえる。当期設計課題の RC 壁式併用住宅や 2 年生での設計課題である鉄筋コンクリート構造集合住宅の基本ともなるので、木構造との違いも含めて学んでいく。	1 ・ ⑤	16		○	
○			建築施工 3	この講座では、建築物の内外装に関わる工事に関して、教科書『初學者の建築講座「建築施工」』を用いながら、防水や内外装仕上げ等の基礎的な知識を学んでいく。この分野の学習は、ともすれば用語や数値の暗記に陥りがちであるが、そのような勉強方法では内容をすぐに忘れてしまうため、何よりもつまらない勉強になってしまう。他の科目との係わり合いを常に意識し、全体を体系的に学ぶように心掛けて学習してください。	1 ・ ⑤	16		○	
○			建築材料 2	我々が生活を営んでいる社会には数多くの建築物があり、それらには様々な種類の建築材料が使用されており、安全で快適な生活空間を提供する為には使用される建築材料の特性を正確に捉えることは非常時に重要である。そこで、本講座では、建築物に使用される代表的な構造材料である、セメント・コンクリート・木材・金属などに主案を置き、JIS や JASS で決められている試験方法を中心として、さまざまな測定・試験を行い、材料の特性を把握するとともに、建築分野における設計・製作・検査の作業の流れを体験的に学習することにより、建築技術者としての資質を養うことを目標としている。	1 ・ ⑤	16		○	

○		建築製図実習 5	<p>3 期をかけて勉強してきた木造住宅の基礎知識をステップにして、RC 壁式構造の住宅の設計手法を学ぶ。木造と RC 造の構造的な違いにより出来る、空間の設計手法の違いや、柱式の構造体と壁式の構造体による空間設計の違いなど、木造住宅の枠をひとつ超えた設計を学ぶ。自由度が高くなることによって起きる弊害やメリットを設計しながら体感し、2000 m² RC 集合住宅の設計につなげていく。</p> <p>RC という構造体と壁式という構造形式を学びながら、より自由度の高い設計を行う。</p> <p><今期の目標></p> <p>1 : RC 壁式構造を理解し、設計反映できること 2 : 実際の敷地に対するデザインサーベイと配置計画の実践 3 : 長屋の用途理解と立体的な空間プログラムの実現</p>	1 ・ ⑤	32				○
○		建築立体造形 実習 5	<p>2 期から 4 期まで学習してきた 3D 技術の集大成として、自分だけの力で内観パースの作成と外観パースの作成が行えるようになることを目標とする。立体造形の表現手法としてコンピュータを使った表現手法の特徴と利点・欠点をより理解することがこの科目内で出来るようになることが重要で、どのような場合にコンピューターグラフィックを活用する必要があるのか、また場合によって模型の方が有効であることも理解をし、より立体を表現するための有効な技術として定着を図る。評価は、内観パース・外観パースの画像提出及び履修判定試験の点数で行う。</p>	1 ・ ⑤	32				○
○		建築製図実習 6	<p>2 年生は専用住宅以外の用途の建築物を設計する。用途は違っても、建築物を利用する人を想像しながらよりよい環境を提案する、という設計の本質は同じである。誰がどんな目的で利用するか、どのように利用されるか、時代・環境・地域・経済との関係はどうか。これらのことを考慮しながら設計できることが大切である。建築物の規模も大きくなるので、関連する法規、大きな空間を可能とする構造についての知識も学ぶ。</p> <p>まずは単一用途で中規模の保育園を設計する。構造形式はコンクリートラーメン構造とする。</p>	2 ・ ①	32				○
○		建築立体造形 実習 6	<p>1 年 5 期に設計した 600 m² RC 壁構造コンプレックスをプレゼンテーションできるようにまとめる。</p> <p>今期の立体表現は模型を使い、外観と内観を表現する。プレゼンボードは A2-1 枚以上とし 1 年時以上の密度の濃いプレゼンテーションボードを目指す。</p> <p>模型の提出は S=1/50 か S=1/100 とする。内観も写真撮影するため、各階が取り外せる模型を作り、家具や植栽、人物も模型に含めて作成する。外観においては周辺敷地も含め作成していくが、グループでの作成でも個人での作成でも可とする。写真の加工や合成を初め、レイアウト表現を含め 1 年次とは異なる室の高いプレゼンテーションボード制作と発表を目指す。</p>	2 ・ ①	32				○
○		建築経済	<p>マンションを建設する際には、木造の戸建住宅と異なり、賃貸として使用した場合の採算性や分譲を行うときの値段の付け方などが、非常に重要な要素となる。コストと利益のバランスを検討しながら、マンションを設計する手法を学ぶ。</p>	2 ・ ②	16			○	

○		建築計画 2	本建築計画 2 および 3 で取り上げる建築物には、集合住宅・図書館・学校・劇場・博物館・事務所ビル・コミュニティセンターなど多岐にわたるが、高度に複雑化する現代社会の中で、それぞれの建築物がどのような特徴をもって成り立っているのか理解を深めてほしいと思う。本講義が各種建築物への理解の一助になると同時に、皆さんの好奇心や問題意識が高まり、今期以降にはじまる設計課題やさらには卒業設計へと発展していくことを期待する。	2 ・ ②	16		○		
○		建築設備 3	建築設備は、機能上、設備機器類・配管・ダクト・配線等は地下の機械室、天井裏やパイプシャフト等に隠れており普段あまり目には見えないが、建築設備の知識を持つことは建築士として「意匠」・「構造」とともに大切なことである。本講義では、「建築設備の概要」から「給排水衛生設備」、「空調設備」、「電気設備」について、建築技術者として、建築の計画・設計、施工を行う上で必要な知識を学んでいく。	2 ・ ②	32		○		
○		建築史 3	建築全体の歴史の流れの中で、特にエポックメイキング的な歴史について学ぶ。特に西洋建築史の基礎となるギリシャ・ローマ。西洋建築史の全盛となったルネサンス。古典建築から近代・現代建築への移行期となったアールヌーヴォー、バウハウス、機能主義建築。そして 1970 年以降のポストモダニズム建築について西洋建築史を中心としながらも、日本の建築史も織り交ぜながら解説する。	2 ・ ②	16		○		
○		建築法規 5	建築基準法は、個々の建築物の安全を考えて、構造、防火、避難、室内環境等に関する規定が定められており、全国どこに建てる場合でも守らなくてはならない。2 年生に 2 期において学習する内容は、集合住宅などといった特殊建築物の設計において戸建住宅にはない、守らなければならない法規が存在し、その特殊建築物における法規を学習します。この期では、防火・耐火・非難・設備に充填において、設計においても二級建築士試験においても活用できる知識の習得を目指す。	2 ・ ②	16		○		
○		建築製図実習 7	1 期に学んだ RC ラーメン構造の設計知識を活用し、公共複合施設を設計課題として中規模耐火建築物の実践的な設計手法を学んで行く。作業は実務同様複数人による共同作業として行う。今年度の課題（野外音楽堂を持つ 3,000 m ² 規模の青少年センター）では、緑の残る多摩地区に敷地を設定し、法規制と近隣住民、周辺環境、交通計画にも配慮をして設計を進めていく。当期（2 期）は敷地や設計条件を読み込み理解した上で、エスキスから基本設計へと作業を進める。授業終了時にはグループ毎に制作経過の発表会と講評会を行い、来期作業への準備を行う。	2 ・ ②	32				○
○		建築立体造形実習 7	2 年 1 期に学習した RC ラーメン構造の中規模の保育園の設計プランを 1 枚のプレゼンボードにまとめ上げる。1 年時の住宅中心の設計に比べ、利用用途に合わせて設計した課題の初めてのまとめとなる。住宅以上に人や車の動線や、各諸室の設備や関連性を意識した設計になっている。必要な用途がしっかりと伝えることができるプレゼンテーションを目指してください。制作物としては、内観と外観を模型とパースを利用して表現し、図面や追加素材を用いて A1-1 枚以上の作品に仕上げる。	2 ・ ②	32				○
○		建築一般構造 3	意匠、構造、設備などの設計図は図面を媒介として、設計意図を確実に施工者に伝達するものであるから、簡潔・明瞭で、しかもすべて表現され曖昧さがないように作成しなければならない。本講座は「鉄筋コンクリート I」での鉄筋コン	2 ・ ③	32		○		

			クリート原理、構成材料の性質および構造的な役割、補強に関する基本的な知識を理解した上で、基礎・床・梁伏せ図、ラーメン配筋基準図及び配筋詳細図など構造設計図の表現法から始まり、材料、かぶり・あき・間隔・折り曲げ・定着・継ぎ手などに関する基本事項及び構造各部材の鉄筋の納まりについて学ぶ。実務レベルの配筋詳細図実習を通じて、今後実際の設計・施工業務において、構造計算書から配筋詳細図が描け、鉄筋コンクリート造躯体工事の設計監理に必要な知識が習得する。						
○		建築計画3	建築計画3で取り上げる建築物には、集合住宅・図書館・学校・劇場・博物館・事務所ビル・コミュニティセンターなど多岐にわたるが、高度に複雑化する現代社会の中で、それぞれの建築物がどのような特徴をもって成り立っているのか理解を深めてほしい。本講義が各種建築物への理解の一助になると同時に、諸君の好奇心や問題意識が高まり、今期以降にはじまる設計課題やさらには卒業設計へと発展していくことを期待する。	2 ・ ③	16			○	
○		建築法規6	建築物を建築するための法規をここまで学習してきた。建築法規6では、それらの建築するための法規を受ける建築物の建築の許可を行うための法規を学習する。一般的には制度規定と呼ばれ、確認済証の交付の必要な建築物等の判別、又は中間検査・完了検査の届出に関する法規を学習し、建築物を建てるための制度・手続きを学ぶ。また、建築基準法に関わる法規「関連法令」を合わせて学習し、建築法規の学習のまとめとする。	2 ・ ③	16			○	
○		建築材料3	本講座では、これまで学んできた建築材料系の授業の総まとめとして、教科書『初学者の建築講座 建築材料』を用いて、全体像を把握することを試みる。具体的には、講座全体を構造用材料、内外装材料、機能材料の3つのパートに分割し、それぞれの最重要項目に絞って講義を行っていく。みなさんが建築材料を体系的に学ぶ最後のチャンスである。単なる要素の丸暗記ではなく、体系的な知識を整理しながら学習してください	2 ・ ③	16			○	
○		生産管理	建築分野は、機械工学や電子工学などの他の工学分野と比して、技術革新の進度が遅いと言われている。この事の要因としては、一品生産であるが故に研究開発のコストを転嫁し難いことや、建物そのもののライフサイクルが長いために実験的・冒険的な技術革新ができないことなどが指摘されている。しかし、一方で、建物の諸性能に対する社会からのニーズの変化への対応や、職人の技能不足などを背景とした施工方法の改革が求められているのも事実である。 本講座では、幾つかのケーススタディを通して「雑学」としての建築技術を概観し、その対応力を身に付ける一つの足がかりを構築することを狙っていく。	2 ・ ③	16			○	
○		建築製図実習8	1期に学んだRCラーメン構造の設計知識を活用し、公共複合施設を設計課題として中規模耐火建築物の実践的な設計手法を学んで行く。作業は実務同様複数人による共同作業として行う。今年度の課題（野外音楽堂を持つ3,000㎡規模の青少年センター）では、緑の残る多摩地区に敷地を設定し、法規制と近隣住民、周辺環境、交通計画にも配慮をして設計を進めていく。当期（2期）は敷地や設計条件を読み込み理解した上で、エスキスから基本設計へと作業を進める。授業終了時にはグループ毎に制作経過の発表会と講評会を行い、来期作業への準備を行う。	2 ・ ③	32				○
○		建築立体造形実習8	2年2期に学習したRCラーメン構造の集合住宅の設計プランを1枚のプレゼンボードにまとめ上	2 ・	32				○

			<p>げる。1年時の戸建て住宅中心の設計に比べ、集合住宅では、敷地全体の計画や動線、パブリックスペース、共用部など戸建てには無い要素が多く含まれている。住宅部分だけではない全体的な設計や特徴をしっかりと伝えられるプレゼンテーションを目指してください。</p>	③					
○		測量実習2	<p>本講座『測量実習2』は、トランシットという測量機器を使用する「角測量」を学ぶ。1年次の「平板測量」、「水準測量」と比較して、必要とされる知識（三角関数など）が多岐に渡り、また、事前の段取りがその成否を大きく左右するなどの特徴を有している。まずは「実践してみる」ことが大事である。現場で使用する最低限のスキルを身に付けることを目的に頑張ってください。</p>	2・③	30				○

○		建築一般構造4	<p>建築物は、地震や台風などのような、外から働くさまざまな力に耐える安全なものでなければならぬし、なによりも人命の安全を確保できるものでなければならぬ。それには、まず、建築物がどのように形づくられているか、そして、その各部分はどうような役割を持っているかについて知る必要がある。本講座では、木質構造の代表的な構法である在来軸組構法による2階建て木造住宅をとりあげ、基礎から小屋組までの模型を製作しながら、建築構造とはどんなものなのか、どのようなことが求められるのだろうか、また、建築物はどのように成り立っているのかについて学ぶ。</p>	2・④	16				○
○		構造力学5	<p>構造力学の最後の科目として部材の性質から不静定構造物までの力学的性質を学習する。前半は、構造力学4までに学習した知識を元に、断面の性質（断面1次モーメント・断面2次モーメント・断面係数）、応力度（垂直応力度・せん断応力度）の復習を行う。この二つは断面形状を検討する上でとても重要な計算になるので、しっかりと復習し知識の定着を目指す。たわみ・座屈においては断面の性質を理解した上で、部材のウィークポイントや限界の荷重などを計算により求めることを目指す。後半では不静定構造物における応力計算を行い、分割モーメントや到達モーメントなどより複雑で、且つ、現実的な構造計算を行う。</p>	2・④	16				○
○		建築施工4	<p>建築を実現させるための手段を提供するのが「施工」の役割であるが、要求される知識は膨大なものとなる。これらの知識全てを丸暗記する事は実質不可能であるし、実務においてもあまり意味がない。必要なのは、コアとなる知識を体系的に覚え、周辺の知識を整理して、その情報が何処に存在するのかを正しく認識する事である。本講座は所謂「2級建築施工管理技術検定試験」の対策講座であるが、試験に合格する為のテクニックを伝授するだけの講座に終わらせるつもりはない。上記の趣旨に基づき、コアな知識と周辺知識の整理を行いつつ、施工管理技士試験と建築実務に対応できる基礎能力を高める事を目指していく。</p>	2・④	96				○
○		建築積算	<p>建築の分野では、設計図や仕様書などの設計図書に基づいて工事費を算出し、予測することを指す。さらには、設計や施工の段階で予算内に納まるように各工事費を調整したり、完成後に実際の工事費を分析する等多岐にわたっている。建築デザイナーが持たなければならない積算に関する基本的な知識、工事施工者が知らなければならない積算に関する基本的な知識を身に付けることにある。この授業では、土工事に関する数量の算出、RC躯体のコンクリート、型枠、鉄筋の数量の算</p>	2・④	32				○

			出の方法、仕上を中心とした内外装材の実務的数量積算手法を習得する						
--	--	--	----------------------------------	--	--	--	--	--	--

○		建築製図実習9	1期に学んだRCラーメン構造の設計知識を活用し、公共複合施設を設計課題として中規模耐火建築物の実践的な設計手法を学んで行く。作業は実務同様複数人による共同作業として行う。今年度の課題（3,000㎡規模の郊外型現代美術館又は都心型複合共同住宅の設計）では、計画敷地を緑が多く残る多摩地区又は中野駅周辺に設定し、法規制と近隣住民、周辺環境、交通計画にも配慮をして設計を進めていく。当期（4期）は前期までに制作したCAD図面データを元に内外観パースと模型製作及び写真撮影を行い、A1サイズのプレゼンテーションボードにレイアウトし、建築作品として完成させる。期末には履修判定試験と共に各グループ担当教員による作品講評会を行う。	2・④	32				○
○		建築立体造形実習9	建築製図実習でまとめた設計案に基づき、計画案の主要部分のパースの作成や概念図の立体表現、プレゼンテーションボードへのまとめ作業を行っていく。立体造形実習で学んできた技術を可能な限り活用し、各自の設計アイデアを十分に表現できるよう工夫しながら作業に当たってほしい。また過去のよい実例も参考にしながら建築表現の幅を広げていく。	2・④	32				○
○		建築士総合講座1	「二級建築士試験」は、建築士法第4条の規定に基づき建築物の設計、工事監理を行なう技術者の業務の適正をはかるとともに、技術水準の確保などを目的として、都道府県知事が実施する国家試験である。「二級建築士」の設計または工事監理ができる業務の範囲については建築士法第3条に規定しており、一級建築士についてその社会的責任の大きい資格であるといえる。この講座は実際の試験と同様に、午前中に行なわれる学科Ⅰ（計画）と学科Ⅱ（法規）を2年間の集大成として整理し直して、要点を解説し実際に出題された問題の解答ができるように進める。	2・⑤	32			○	
○		建築士総合講座2	「二級建築士試験」は、建築士法第4条の規定に基づき建築物の設計、工事監理を行なう技術者の業務の適正をはかるとともに、技術水準の確保などを目的として、都道府県知事が実施する国家試験である。「二級建築士」の設計または工事監理ができる業務の範囲については建築士法第3条に規定しており、一級建築士についてその社会的責任の大きい資格であるといえる。この講座は実際の試験と同様に、午前中に行なわれる学科Ⅲ（構造）と学科Ⅳ（施工）を2年間の集大成として整理し直して、要点を解説し実際に出題された問題の解答ができるように進める。	2・⑤	32			○	

○		建築製図実習10	5期ではその設計課題を元にプレゼンボードへとまとめ、講評会での発表を目標とする。計画的敷地によるゾーニングや設計のコンセプトを文章や図にまとめ、法規制のクリアを確認し、構造的スパンや部材寸法を図面で表す。最終的には、図面、CG、模型をプレゼンボードにまとめ上げ、5期末の卒業制作作品講評会で発表に臨む。最終成果品としては、模型または立体表現（CGなど）とA1プレゼンボード指定枚数以上、調査資料冊子2部。プレゼンボードは印刷後パネル化、展示を行う。この授業は、建築製図実習10と共通のテーマを基に取組んでいく。	2・⑤	64				○
○		建築立体造形実習10	2年間かけて学習した建築の知識を活用し、4期に一級建築士レベルに相当する複合建築の設計	2・	64				○

				を行いました。5 期ではその設計課題を元にプレゼンボードへとまとめ、講評会での発表を目標とする。 計画的敷地によるゾーニングや設計のコンセプトを文章や図にまとめ、法規的制限のクリアを確認し、構造的スパンや部材寸法を図面で表す。最終的には、図面、CG、模型をプレゼンボードにまとめ上げ、5 期末の卒業制作作品講評会で発表に臨む。最終成果品としては、模型または立体表現（CG など）と A1 プレゼンボード指定枚数以上、調査資料冊子 2 部。プレゼンボードは印刷後パネル化、展示を行う。 ※課題 A・B はプレゼンボード 4 枚以上、課題 C はプレゼンボード 1 枚以上+図面集とする。	⑤					
○			建築士総合講座 3	「二級建築士試験」は、建築士法第 4 条の規定に基づき建築物の設計・工事監理を行う技術者の業務の適正をはかるとともに、技術水準の確保などを目的として、都道府県知事が実施する国家試験である。「二級建築士」の設計または工事監理ができる業務の範囲については建築士法第 3 条に規定しており、一級建築士についてその社会的責任の大きい資格であるといえる。この講座では、二級建築士の二次試験である「設計製図試験」対策として基本的な課題をとりあげ、建築士試験特有の製図技術等について、演習を通し学んでいく。	2 ・ ⑤	32				○
		○	海外短期留学研修 1	海外提携校（米フェリス州立大学）において ESL（English as a Second Language）講座並びに異文化コミュニケーションの実践的研修を実施する。	1②	90				○
		○	海外短期留学研修 2	海外提携校（米フェリス州立大学）において ESL（English as a Second Language）講座並びに異文化コミュニケーションの実践的研修を実施する。	2②	90				○
		○	建築インテリア海外研修 1	建築並びに都市計画に対する見聞を広げるために、主に西洋建築を中心とした特別集中講義を実施し、実際に現地（主にヨーロッパ）に赴き実体験として刷り込みを図る。	1⑤	90				○
		○	建築インテリア海外研修 2	建築並びに都市計画に対する見聞を広げるために、主に西洋建築を中心とした特別集中講義を実施し、実際に現地（主にヨーロッパ）に赴き実体験として刷り込みを図る。	2⑤	90				○

		○	中国沙漠緑化研修 1	海外提携校（中国・新疆大学）において、同大学と共同で取り組んでいる沙漠緑化の実施研修を行う。	1②	60				○
		○	中国沙漠緑化研修 2	海外提携校（中国・新疆大学）において、同大学と共同で取り組んでいる沙漠緑化の実施研修を行う。	2②	60				○
		○	国内建築研修 1	建築並びに都市計画に対する見聞を広げるために、国内の建築物に関する特別集中講義を実施し、実際に現地へ赴き実体験として刷り込みを図る。	1⑤	30				○
		○	国内建築研修 2	建築並びに都市計画に対する見聞を広げるために、国内の建築物に関する特別集中講義を実施し、実際に現地へ赴き実体験として刷り込みを図る。	2⑤	30				○
合計					74 科目	2,204 単位時間（	単位）			